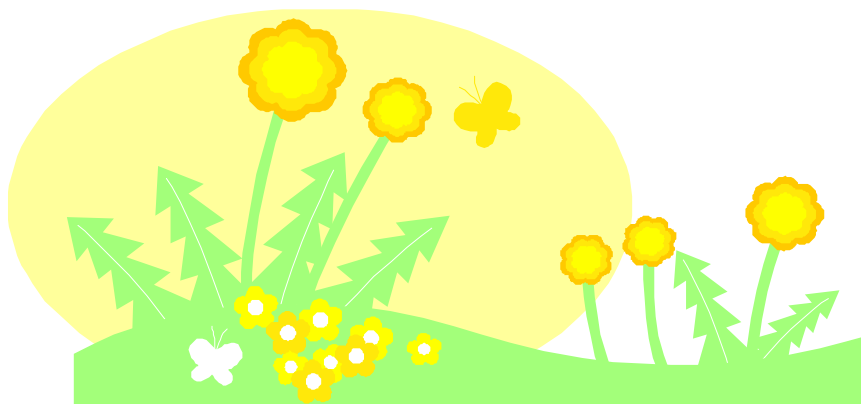


さま



私たち医療スタッフは

- I 入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします
- II 抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いします



FEC
(5-FU・エピルビシン・エンドキサン)

EC
(エピルビシン・エンドキサン)

AC
(ドキソルビシン・エンドキサン)

療法

■ 主治医／担当医

■ 受け持ち看護師

2014年8月1日 作成
2026年6月26日 改訂

化学療法を受けられる方へ

化学療法とは「抗がん剤を使って病巣や目に見えない全身のがん細胞を攻撃しておさえる方法」です

3週間に1回のペースで点滴を行います

初回（1クール目）は入院で点滴を行い、2クール目からは、外来で行う予定です

点滴の時間は、1時間以内の予定です

抗がん剤の投与時期や量は、患者さんの体調や検査結果によって変更されることもあります

※治療前には血液検査を必ず行います

治療前の歯科受診について

◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、治療開始前の歯科診察を行っています

◆治療前の歯科受診では、以下を行います

- ・レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
- ・歯ブラシだけではとれない細菌の除去
- ・適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導



◆通常1～2回の受診で終わることができます

口の中はとても細菌の多い場所です

治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります

特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中をきれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です

入院中の生活の注意点



- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆口の中は清潔にするように心がけましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まると薬が腎臓や膀胱を刺激し、炎症を起こしますので、尿意を感じたら我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありません
ができるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう
- 尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取り、
トイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう
- トイレの後、フタがある場合は、
フタをして水を2回流しましょう
- トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
 - ＊使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - ＊トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
- 尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう



ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように**患者さんご自身の目標**と**医療スタッフの目標**をあげています

入院は約9日間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては、予定どおりにすすまないこともあります。その都度対応していきますので、ご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます





今日の目標

- ・治療の必要性、副作用について理解できる
- ・医療スタッフの説明が理解できる

<時間>

<予定>

11:00	入院	【入院後に以下のことを予定しています】
12:00	昼食	・看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明（テレビの病院案内も参考にしてください） ・検温、血圧測定、身体測定 ・連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り ・歯科受診 ・血液検査、尿検査 ・医師、薬剤師より抗がん剤治療の説明があります ・サインをした同意書は、看護師にお渡しください ・初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
		2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください
		わからないことやもう少し詳しく説明を聞きたいことなどがありましたら、遠慮なくお尋ねください
		<お薬> ・他の病院で処方されたお薬は、一度お預かりします 医師に確認後、続けるか中止するかをお伝えします
18:00	夕食	
21:30	消灯	<食事> ・食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください ・基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります



医療スタッフの目標

- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・安全に治療を受けることができる
- ・治療の副作用について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐、便秘、下痢について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

12:00

昼食



膀胱炎予防のため
水分を十分に
とりましょう
(目安1日1ℓ)

※治療の予定については服薬指導の紙をご覧ください

- ・点滴は1時間以内に終了する予定です
- ・点滴開始60分前にアプレピタント（吐き気止め）1カプセルを服用します（※看護師がお持ちします）

<午前治療の場合>

10:00頃から点滴を始めます

シャワー浴は朝（9:00頃）または、点滴終了後体調に合わせて行いましょう

<午後治療の場合>

13:30頃から点滴を始めます

シャワー浴は午前中に行いましょう

- ・点滴中は、副作用を早期発見するために付き添ったり、頻回に訪室します
- ・針の入っているところが赤くなった、腫れた、痛いときなどはすぐに看護師へ知らせてください
- ・点滴のもれを防ぐために看護師が身の回りのことをお手伝いします

<時間>

<予定>

治療後は、便秘傾向になります

マグミット（緩下剤）を調節しながら服用しましょう

18:00

夕食

夕食後、オランザピン錠を2錠服用します

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう

また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

19:00

検温、血圧測定

21:30

消灯



治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

吐き気の強いときは追加で
薬を使うことができます
遠慮せず看護師にお伝えください



- 点滴中は、トイレなどの歩行時、転倒に注意しましょう
- 点滴台を支えにして歩くと転倒の可能性があります
支えにしないようにしましょう

退院日のページの後に、体調の変化や副作用症状について
記載できるページがありますので、活用してください

医療スタッフの目標

- 副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます





今日の目標

- ・治療の副作用について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食
朝食後、デカドロン2錠、アプレピタント1カプセル
を服用します

10:00

検温、血圧測定

治療2日目：脱毛、味覚障害・食欲不振について
治療3日目：倦怠感、皮膚障害、爪の障害について
説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」パンフレット参照
「爪の障害」ページ参照

12:00

昼食

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



吐き気の強いときは追加で
お薬を使うことができます
遠慮なく看護師にお伝えください



<時間>

<予定>



膀胱炎予防のため
水分を十分に
とりましょう
(目安1日1ℓ)

18:00

夕食

夕食後、**オランザピン錠2錠**を服用します

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

19:00

検温、血圧測定

21:30

消灯



フタをして水を
2回流しましょう

便が出にくいときは
緩下剤を調節しながら
服用しましょう

針の入っているところが**赤くなった、腫れた、痛い**ときなどは、
すぐに看護師へ知らせてください

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

7:30

朝食

朝食後、デカドロン2錠を服用します
(治療4日目まで)

10:00

検温、血圧測定

治療5日目：口内炎について説明します
治療6日目：息切れ・動悸について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
「口腔ケアパンフレット」参照

12:00

昼食

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



便が出にくいときは
緩下剤を調節しながら
服用しましょう

通院治療室についての説明と見学を行います
「外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ」ページ参照

<時間>

<予定>

18:00

夕食

夕食後、**オランザピン錠2錠**を服用します
(治療4日目まで)

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

21:30

消灯

吐き気の強いときは追加で
お薬を使うことができます
遠慮なく看護師にお伝えください



MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- ・ 副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

7:30

朝食

9:30

血液検査

10:00

検温、血圧測定

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



12:00

昼食

血液検査の結果と骨髄毒性について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

退院後の日常生活について説明をします
「退院後の日常生活について」ページ参照

18:00

夕食

21:30

消灯

感染予防のために手洗い・うがいは
しっかりしましょう

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・退院の準備をすすめられるように支援します





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

お預かりしている薬、退院の薬がある場合はお渡し
します
次回外来予約票をお渡しします

10:00

退院
退院前に忘れ物がないようにご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階でお支払ください

次回外来受診は

月 日 () 時の予定です

外来受診時に検査のある場合は、事前に医師から説明があります

医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します





ウィッグ以外にも
＼ お役立ち製品が色々♪ ／



ウィッグ 帽子 ヘア用品
ネックカバーなど

メイク ネイル用品

治療によって脱毛・肌や爪のトラブルが起こる可能性がある方に
上記展示品の案内や試着を行っています

お住まいの自治体によっては、治療に伴うウィッグに関する助成
制度を設けています
詳しくは本館2階『がん相談支援センター』でご相談ください

※暖だんでの販売は行っておりません
気になる製品については、購入方法をお伝えしています



●爪の障害

1. 定義

抗がん剤により皮膚の乾燥が強くなったり、爪の発育に影響を及ぼしたりすることで、爪の変形が生じやすくなることです

2. 症状

爪の変形：凸凹、亀裂、変色、二枚爪などが起こることがあります

症状は抗がん剤治療開始後、2～3クール目以降に出現することがあります

3. 対策と日常生活の注意点

- 乾燥すると爪が割れやすくなるので、ハンドクリームなどの保湿クリームを爪や爪の周りに塗りましょう

- マニキュア等も活用しましょう

爪の変色をカバーするとともに、もろくなった爪を保護してくれる役割があります

※爪が変色しているときはマニキュアを重ね塗りをするとより目立ちにくくなりますが、1週間に1回は清潔の保持と爪の観察のため一度落として塗り直しをしましょう

※爪の表面が凸凹していると引っかかったり、傷つけやすくなりますのでマニキュアやベースコートを塗ることで、ひび割れなどから爪を守ることができます

- 爪が白くなって浮いてくることがあります

手袋の着用やテープでの保護など日常生活に合わせて使用しましょう

(テープ保護の必要な場合は看護師がお伝えします)



● 爪に亀裂が入ったり変形しているときは気づかいうちに引っ掛けて、爪がはがれてしまうことがあります
爪は伸ばしすぎないようにしましょう

● 爪切りで切ると爪が割れやすくなるので、爪専用のやすり（ネイルファイル）を使う方が良いでしょう
お風呂あがりなど、爪が柔らかいときに行いましょう

● 爪の切り方《写真参照》
爪の角（黄色い○印）の部分皮膚の先の長さまで伸ばし、四角い形に切りそろえます



爪の角を切りすぎると深爪により炎症を起こしやすいので注意！



手の指



足の親指

● 爪の周りが痛んだり、腫れや浸出液のあるときには
マニキュア等は避け、看護師や主治医に相談しましょう

外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ

通院治療の流れ

①受付



B受付

②採血
中央処置室



☆採血時のお願い☆

採血時に注意することは退院前に確認しておきましょう
点滴予定の腕とは反対の腕で採血しましょう



採血結果が出るまで、
約30分～1時間かかります

A受付

呼吸器科
消化器科
緩和ケア
感染症腫瘍内科
骨軟部腫瘍・
整形外科
禁煙外来

B受付

泌尿器科
血液腫瘍内科
原発不明がん
診療科

③診察受付

④診察

治療決定

C受付

乳腺外科
婦人科
形成外科
頭頸科・甲状腺腫瘍外科
歯科
病理診断科

S受付

消化器内科
糖尿病内科
内分泌内科
循環器内科
皮膚科
眼科
精神科
脳神経外科
リンパ浮腫
がんゲノム医療外来

S受付

⑤治療
通院治療室

看護師が点滴の針を刺し、
確認後に抗がん剤を開始します

治療終了

検査や他の診療科で診察のある方は、各受付へ

検査の説明を受ける方は、予約センターへ

予約センターは
B受付の隣です

⑥会計



処方箋もすべてファイルに入れたまま総合受付 **6番窓口** に提出してください。

***お薬の処方がある方へ**

6番窓口で処方箋をお渡しします。4日以内にお薬をお受け取りください。

通院治療室での過ごし方

- 外来で初めて治療を受ける方は、説明と確認を行うため、少し時間がかかります。
- 入室時に、ベッドか椅子を選択できますが、混雑時にはご希望に添えないこともあります。
- テレビは無料で利用できます。ラジオや音楽プレイヤー等の持ち込みも可能です。ご利用される場合にはイヤホンをご用意ください。
- 携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- 通院治療室内での飲食は可能ですが、においの強いものはご遠慮ください。飲食される方は、各自でご準備ください。
- トイレは通院治療室内のトイレをご使用ください。男女兼用ですが、3か所あります。
- 付き添いは原則ご遠慮いただいております。ご家族の待機場所として「暖だん」や「図書コーナー」などがあります。
- 副作用や日常生活で困っていることや相談したいことがあれば、いつでもスタッフに声をおかけください。





遺伝性腫瘍(がん)について

お気軽に

このような方は、ご相談ください。

血縁者に
がんが多い

若くして
がんができる

日本人では、2人に1人が生涯のうちに
にがんにかかると言われています。

よって、家系内にがん患者さんが
複数いることは珍しいことでは
ありません。

何度も
いろいろな
がんができる

当院では、専門知識をもった
臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセ
ラーから、医学的な観点より
遺伝性腫瘍や遺伝子検査について
詳しくお話しさせていただきます。



ご 相 談 に つ い て

遺伝性がん診療科では、患者さんとそのご家族を対象として、家族歴や場合によって遺伝子診断に基づいて、がんの発症にかかわる遺伝的要素について検討します。遺伝的要素ががんの発症にかかわっていることが考えられる場合には、がんの早期発見のための方法等についてアドバイスし、今後の健康管理に役立てていけるように支援いたします。

相談は十分に時間をかけてお話を伺うため、完全予約制です。

事前に「がん相談支援センター」へ直接あるいは電話にてご予約ください。なお、相談は個室で行い、内容は外部に漏れることのないよう厳重に管理いたしますので、ご安心ください。

お問い合わせ



＜時 間＞8：30～17：15（土・日・祝日を除く）

＜窓 口＞がん相談支援センター

＜電 話＞089-999-1114（直通ダイヤル）

「遺伝性のがんに関する相談」とお伝えください。

遺伝カウンセラーが対応いたします。

お子さんがいらっしゃる 患者さんへ



「お母さん、大丈夫かな」
「お父さん、元気になるよね」

がんの治療はそれだけでも大きなストレスとなりますが、患者さんに子どもがいらっしゃる場合、その負担はより大きくなるといわれています

また、子どもにとっても親の病気は大きな出来事です
子どもは、たとえ病気のことを聞かされていなくても、
普段とは違った家族の様子に気づいているといわれます
子どものストレス反応は、年齢、性格、環境などによっては

さまざまですが、周囲のサポートを得ながら、
子どもはその困難を乗り越えて行く力を持っています



当院では、患者さんができるだけ安心して
療養生活を送ることができるように、
それぞれのご家庭の状況に応じ、お子さんも視野に入れた
ご家族全体の支援をおこなっていきます

何をするの？

大人(患者さん・ご家族)の方々へ

子どもに関する様々なご相談に対応します

子どもへの関わり方、気になる言動など、丁寧にお話を伺いながら、最善の支援体制を一緒に考えます

状況によっては、教育機関や小児医療、福祉施設との連携も視野に入れてサポートします

何をするの？

お子さんへ

遊びや会話を通して、子どもの考えや感じていることを引き出し、受け止めます。その上で、年齢に応じた病気の説明やストレスマネジメントなどの心理教育をおこないます

また、院内探検などを通じて、病気に対する怖さを取り除き、子どもの持つ社会的な学習意欲を大切にします

誰に言えばいいの？

がん相談支援センター、または、病棟スタッフにお声かけください

子どもの心理、行動に詳しい臨床心理士などが対応します



Q & A

Q：治療期間中に旅行に行きたいのですが・・・

A：治療にはあらかじめ、スケジュールが決められています
治療をスケジュールどおりに行うことは大切ですが、
旅行はもちろん気分転換活動を行うなど、治療前と同じような生活を送ることによって、ストレスをためないことは、
治療を続けていく「ちから」になります
旅行の時期については、体調をみて、主治医と相談しながら決めていきましょう

Q：治療後、月経がなくなったのですが・・・

A：薬剤によっては、卵巢機能に影響を与えるものもあり※1
女性ホルモンの生産低下や停止をもたらすものもあります
卵巢機能への影響・・・**月経周期の乱れ、無月経**※2
更年期障害（のぼせ、ほてり、冷え症、発汗異常、動悸、めまい、うつ状態、イライラ感、不眠、頭痛、手足のしびれなど）に似た症状が起こる場合もあります

※1 卵巢機能障害は、薬の種類、投与量、患者さんの年齢などにより異なります
今回使用するエンドキサンは、卵巢機能障害を起こしやすい薬剤とされています

※2 無月経は、一時的な場合と、永久的な場合があります
月経が戻る場合は、治療終了後3～6か月後に再来することが多いようです



Q：抗がん剤治療中、性生活を控えた方がいいですか？

A：特に制限はありませんが、抗がん剤による胎児への影響がありますので必ず避妊してください
白血球や血小板などが減少する時期には感染や出血がおきやすいため、一時的に控えたほうが良いでしょう

Q：では、妊娠することはないのでしょうか？

A：ホルモンの調整は、脳からの指令によって行われています
抗がん剤は、卵巣に作用しますが、脳の指令を出す部分への影響はないと考えられています
そのため、**妊娠する可能性はあります**
閉経前の方は治療で月経が停止しても、**避妊は必要**です

影響を与える要因となるもの

①**薬剤の用量および治療回数**

用量や治療回数が多いほど、妊娠する可能性が低くなります

②**年齢**

閉経期に近い方ほど妊娠に影響を与えます

1年以上たてば妊娠しても大丈夫ですが、一般的に乳がん治療後1～3年以内に再発することが最も多いことから、少なくともこの期間は妊娠を待つことが安全と考えられています

治療後その期間はパートナーにも協力を求めて、避妊を行っていくようにしましょう



退院後の日常生活について

●食事

特に制限はありません
バランスの良い食事を心がけましょう
食欲がないときは、無理をせず、食べやすい
ものを食べられるときにとるようにしましょう



白血球が減少している時期は、残り物、賞味期限切れの物を
召し上がらないようにご注意ください

●お薬

医師の指示どおりに服用しましょう



* 37.5℃以上の発熱がある場合の対応について

- ・処方されている抗生物質を服用してください
- ・抗生物質は飲み始めたら、処方されている期間は飲み続け
ましょう
- ・ただし、飲み始めて「湿疹がでる」「下痢がひどい」など
異常があれば内服をやめ、がん相談支援センターに相談し
ましょう

●活動

特に制限はありません
白血球が減少している期間は、風邪をひきやすかったり熱が
出やすいため、外出時マスクを着用しましょう
外出や買い物は比較的人ごみの少ない朝の早い時間をお勧め
します



●清潔

皮膚に付着している常在菌を減らすために、可能な限り毎日入浴やシャワー浴をし、体を清潔にしておきましょう
（ただし、発熱時やだるさが強い場合は控え、温かいタオルなどで体を拭くようにしましょう）

うがい・歯磨きをして口の中を清潔に保ちましょう
歯ぐきの傷つきを防止するため、歯ブラシは小さく毛の柔らかいものを使いましょう

●排泄

規則的な排便習慣を身につけるようにしましょう

便秘のときは処方の便秘薬を調整して服用してください
処方されていないときは市販の便秘薬を服用してもかまいません
（下痢になったら下剤は中止しましょう）

下痢のときは市販の整腸剤を服用してもかまいません

●その他

外来受診は、必ず受けるようにしましょう

外見の変化（脱毛、爪、皮膚のくすみなど）に関して気になることがあれば、患者・家族総合支援センター「暖だん」で情報を用意していますので、お気軽にお立ち寄りください

外来受診や再入院時には、このパンフレットと
「がん化学療法を受けられる方へ」のパンフレット
「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」のパンフレット
をお持ちください



- 抗生物質を飲みきっても37.5℃以上の発熱が続くとき
- 吐き気、嘔吐があり、食事や水分がほとんどとれないとき
- 整腸剤を服用しても水のような下痢が続くとき
- 体を起こすことが辛いほどの強いだるさが何日も続くとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8:30~17:15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】 13:00~17:00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112

FEC/EC/AC療法を受けられる方へ